

THE DOORS

2013 Autumn
Vol. 1

くらしを 楽しむ つくり方!

ISSUE 31 ARCHITECTS

表紙写真 / 東京都 H邸 (photo by Gen Inoue)



2階のLDKは半階上の子供室、半階下の多目的室と視覚的につながっているため広がりを感じられる。階段室はガラス張りなので上部からの光がたっぷり。



1:南側の子供室からリビングを見下ろす。建具で仕切れば個室化も可能。
2:日曜大工が趣味のご主人のために、玄関脇に土間スペースを確保。
3:リビングの南側の大開口が、キッチンからの眺めを格別のものに。

建築家の家づくり

建物を2つに割ってずらすという ユニークな発想で、快適な住まいを実現

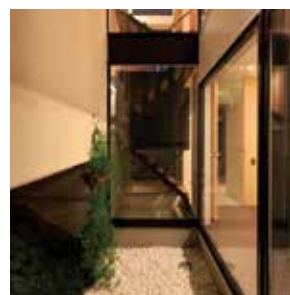
条件の厳しい敷地に家を建てる時、そのハードルを乗り越えるときこそ、建築家の創意工夫がキラリと光る。



長方形の箱を「割って、離して」できた隙間を階段室に。ガラス張りのため、上部からの光が各部屋に届く。



システムキッチンを造作の壁で覆い、室内の統一感を実現。ダイニングセットや照明などHさんのこだわりが随所に。



北側から見た階段室。グリーンを配した築山は、基礎工事の際に掘り起こした土を利用した。寝室から緑が楽しめる。

2011年7月——出会い

「ホームページを拝見したんですが……」と、Hさんから連絡があったのは2011年6月のこと。段差のある敷地に建てた家の設計例を見て連絡したということだった。ちょうど「建築家31人×3 works展」を控えていたので、その会場に来てみませんか、会場で会うことを約束した。

7月17日、Hさんは、会場へご夫婦揃ってやってきた。模型展は模型を見ながら直接建築家と話ができる、出会いには最適の場。Hさんは階段に挟まれたひな壇状の土地を購入し、どんな家建てようか思案中とのこと。条件の厳しい土地での家づくりこそ建築家の出番と、ファーストプランに着手することに。

2011年9月——基本設計

ひとことで言うと、長方形の箱を2つに割って、離して、上下にずらした4層のスキップフロアの家。長方形を離して生まれた空間を階段室にして十分な採光を実現、ずらしたことで生まれた床下スペースを収納に当てた。1階

が玄関と主寝室、1.5階がバスルームなどの水回り家事がこなせる多目的室、2階がLDK、2.5階が2つの子供室という間取りだ。

この「割って、離して、ずらす」プランは、明るいLDKが欲しい、収納スペースをたくさん確保したいといったHさんの要望をほぼクリアし、とても気に入っていただき、10月に正式に設計監理契約を結ぶことになった。

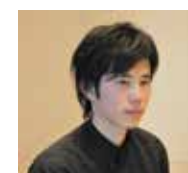
2012年5月——着工

スキップフロアのメリットのひとつは、壁や廊下なしで生活ゾーンをゆるやかに分けられること。例えばLDKとその半階上の子供室は壁の仕切りがないので、子供たちが遊ぶ姿がキッチンからも見える安心感がある。仕切りたいたいときのために3枚の建具を用意したので、完全に個室にすることもできる。冷暖房効率を高めたいときにも活躍する。そしてその建具が、階段室のさらに向こうに完全におさめられるようにした。可変性のあるプランは家族の成長に合わせて変えられるというメリットにもなっている。



DATA

場所／東京都大田区
家族構成／夫婦＋子供2人
設計／井上 玄(株式会社 GEN INOUE)
施工／進栄建設 株式会社
竣工／2012年12月
構造／木造2階建 敷地面積／98.35㎡
建築面積／47.55㎡ 延床面積／87.58㎡



井上 玄
株式会社 GEN INOUE
横浜市中区井天通6-85 宇徳ビル404
TEL 045-534-9470
URL <http://www.architect.bz/>



© photo by Hiroyuki Hirai

天井までの大きな窓は壁面にすっきりと収納できる引き戸。フルオープンにするとウッドデッキから中庭までひと続きになって、格別の開放感だ。建物に囲まれた中庭は外部からの視線が遮断されているので、のびのびとくつろげる。



リビングから、ダイニングから、バスルームから、またスロープのさまざまなポイントから、中庭に向かって窓があり、眺めが楽しめるつくり。中庭を介して各部屋がゆるやかにつながっている。

古川 達也
スロープをのぼっていくときに、ところどころで空が見えるのがいいですね。閉じているところと開いて風景が見えるところと、窓が効果的に使われていますね。開口部の位置や大きさが、繊細に計画されていることがわかります。

南部 健太郎
この風景も、あの風景もと、つい開口部を作りすぎてしまいがちです。我慢して閉じる、全部見せないことが功を奏していますね。

前田 敦
スロープの先に光が見えると、広がりを感じられる。先のほうに気配を感じられる。窓をつけることで、そういう効果も狙っています。

高橋 正彦
低いところ、ちょうど犬の目の高さにも窓がついてますが、犬も含めて家族のコミュニケーションをとるためのしかけということですか。

前田 敦
駐車場に面した低い窓は、愛犬たちが、出かけるご夫婦を見送ったり、迎えたりできる送迎用の窓です。

自慢の家を5人の建築家が訪問しました 4つのフロアを ドッグランの スロープがつなぐ 階段のない家



訪ねた人 河辺 近 古川 達也 高橋 正彦 松永 基 南部 健太郎
設計した人 前田 敦

2つの建物が中庭を挟んで建つ。いずれも2階建てだが、高さが半階分ずれているのでフロアは4つ。この4つのフロアをゆるいスロープがつないでいる。

玄関を入ると、アイランド型キッチンが設置されたダイニングキッチン。キッチンに立つと視線の先にはウッドデッキと中庭の芝生、そのさらに向こうにリビングでくつろぐ家族の姿がうかがえる。

ダイニングキッチンから外壁に沿ってスロープを下りたところがリビング、隣接してバスルームが配置されている。ダイニングキッチンから反対側を上がっていくと寝室のフロアへ。さらにスロープ

を上がると縁なしの畳を敷いたモダンな和室と、書斎がある。

中庭に面して様々な要素が並んでいる。ダイニング、リビング、バスルームが、中庭を介して関係性を持つ。

家中がまるでドッグランのようなこの家は、元々「ミニチュアダックスフントと暮らす家」の設計コンペに提案し、見事、最優秀賞をとった作品。施主のTさんがインターネットで見つけて一目惚れ、このプランが実現できる土地を探したという。建築家冥利に尽きる。

施主ご夫婦は「こいつらがスロープを楽しくそうに走るんです。それを見ているだけで癒されます」と大満足のご様子だ。



© photo by Hiroyuki Hirai

外壁に沿ってぐるりと巡るスロープは1/8勾配。愛犬たちは楽しそうに、家中を上へ下へと立体的に走り回る。床は足腰にやさしいタイルカーペット敷き。窓や照明に変化をつけて単調にならないように工夫し、移動そのものが楽しめるようにした。



バスルームからも中庭、その向こうのDKが見渡せ、家族の気配が感じられる。ジャクジー付きのバスタブで優雅なバスタイム。

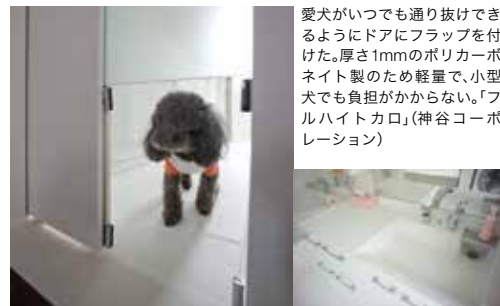


周囲を建物で囲んで外部の視線を遮り、プライバシーを確保した中庭は、開放的でありながら、家族みんながのびのびとくつろげる空間。

DATA
場所／神奈川県鎌倉市
家族構成／夫婦＋トイプードル2頭
設計／前田 敦 (前田敦計画工房)
施工／日本住研株式会社
竣工／2013年6月
構造／木造2階建 敷地面積／179.95㎡
建築面積／85.89㎡ 延床面積／152.03㎡



前田 敦
前田敦計画工房
東京都渋谷区本町1-53-11 cubicM 608
TEL 03-5351-3101
URL www.mac-atelier.com



愛犬がいつでも通り抜けできるようにドアにフラップを付けた。厚さ1mmのポリカーボネイト製のため軽量で、小型犬でも負担がからない。「フルハイトカロ」(神谷コーポレーション)

洗面室には愛犬のシャンプー専用のシンクも用意した。

© photo by Kenji Sugita

FULL HEIGHT DOOR®

神谷コーポレーション株式会社
http://www.kamiya-yokohama.co.jp/

Show Rooms

Yokohama Nagoya
Osaka Hiroshima

kamiya
ともに、生きる

本 社
〒221-0802 横浜市神奈川区六角橋5-8-1
TEL:045-413-3511 FAX:045-413-3527

フルハイトドアに関するお問合せはこちら
伊勢原工場
〒259-1146 神奈川県伊勢原市鈴川50
TEL:0463-94-6203 FAX:0463-94-8295

くらしをより楽しむための ARCHITECTURE ITEM [DOOR]

広く奥行のあるように見せるステンレス鏡面仕上げの玄関ドア

「玄関に鏡を設けたい」
「玄関が狭いながらも広がりある工夫を考えたい」
こんなことを考えている方にうってつけの玄関扉のご紹介です。ステンレスを鏡面仕上げにし、玄関扉としました。鏡のような質感があり、姿見としては十分な機能を兼ね備えています。また、すべてが鏡のような仕上げなので、扉としての存在感もなくなり、空間に広がりを持たせる効果も生まれ、一石二鳥。若干金銭的には高価なものになりますが、限られたスペースの中で多機能な玄関扉はオススメです。



(左) お出かけ前のファッションチェックもステンレス鏡面仕上の玄関扉があれば万全。狭い玄関も広く感じることができます。
(右) 奥行1.8mほどのエントランスアプローチもステンレス鏡面仕上の玄関扉を用いれば倍の奥行感が生まれます。



筒井紀博
一級建築士事務所
筒井紀博空間工房
TEL 03-3247-8922
URL <http://www.ktts.jp/>

三方枠とアングルでつくる、閉じると枠なしすっきり片引戸

扉には開戸や引戸などいろいろな種類がありますが、なかでも引戸は作るのに手間が掛かり、納まりも複雑、スペースを必要とするため価格も上がりがちです。その引戸を簡単に作り、綺麗に、コンパクトに納まるようにしました。鴨居として戸幅でアルミアングルを三方枠に取り付け、戸に彫り込まれた溝がアングルを走ります。戸が開いた時にはアングルが見えますが、閉じた時には見えません。床にはVレールをながし、その上を戸車が走ります。



(左) 開いた時には、アングルが見えます。召合せ部分のアングルで引戸を保持しています。
(右) リビングから戸を見たところ。戸が開いているので、鴨居のアングルは全くわかりません。



蒔田真志 + 蒔田 晶
有限会社
蒔田建築設計事務所
TEL 048-683-7899
URL <http://www.archi-komo.co.jp>

窓と組み合わせたオリジナル玄関ドア

G-n1は中庭のある小住宅です。シンプルな外観で「家」をアイコンとして表しています。白い壁をくりぬいたような黒い正方形に開口部を集約することで、外観をよりシンプルにしています。一つの黒い木板の格子の中に、玄関ドア・玄関の窓・2階の和室の木窓・明かり取りの窓を組み合わせています。正面の開口部はここだけ、他は中庭に面しています。建物の顔となる玄関ドアは、オリジナルで設計するように心がけています。



(左) 玄関ドアを開けると、中庭が見えます。玄関ドアの上部は2階和室の小窓。
(右) 白い切り妻屋根のボリュームを正方形にくりぬいたシンプルな外観。



石川 淳
株式会社 石川淳建築設計事務所
TEL 03-3950-0351
URL <http://www.jun-ar.info/>

建築家6人のこだわり建具

個性的で柔らかな表情を持つ、アーチ状の出入口

室内の出入口は毎日無意識に通り返っています。そんな出入口を少しでも楽しく、個性豊かにするひとつの方法がアーチ状のデザインです。枠をアーチ状とし引戸を組み合わせるだけで、柔らかな表情を持つ出入口が完成します。日本でも昔から使われている火灯口(かとうぐち)といわれる和室(茶室)の出入口もアーチ状です。和室以外の洋室にも合うデザインだと思いますが、どちらかという女性に好まれるデザインのようなのです。



(左) アーチ状の枠と引戸の組み合わせにより、室内側と室外(廊下)側からの見え方は違った印象になります。
(右) 引戸は設けず、アーチ部分にブリックタイルを貼ることで、より個性的でオリジナルな表情を持つ出入口の完成です。



余田正徳
余田正徳建築設計事務所
TEL 03-6413-1704
URL <http://www.yoda-archi.com/>

下地材の合板を使い、壁も建具も連続して作る

「壁と建具」ではなく、「建具も壁の一部」として、同じ素材で作ることも可能です。事例は壁や床の下地材として使う構造用合板(ラージ)を用いたもので、合板特有のラフな素材感を活かすため、壁、建具ともに板の小口(端部)はそのまま見せる形で貼り合わせています。壁と建具の木目と割り付けを揃え、取っ手は無くして指が入るだけの穴開けなど、細かな部分も設計しておくことで、経年も楽しむ壁の一部となっています。



(左) ステンレスのフラットバーと滑車を組み合わせて作ったオリジナル引き戸。素材の組み合わせで合板のラフさを際立たせています。
(左) 一体に見える壁の中には、水回りへの入口、鏡貼りの通気窓、靴収納の扉が組み込まれています。



一條美賀
一級建築士事務所まんぼう
TEL 03-3466-7850
URL <http://www.mambo-aa.jp/>

樺並木との関係をコントロールする引込戸

建物が面する、鬼子母神へつながる参道の樺並木は樹齢400年を数えます。参道を切り取る額縁の役目となる上段「見る窓」と、風の抜けを生む下段「換気窓」。そして、内側のもうひとつの層として存在するのが、障子戸+板戸の2種類の建具です。上段の障子戸は、閉じていても樺のシルエットが映り込み、やわらかい外部とのつながりを生みます。上下とも両袖壁の中に引き込めるため、通りに対してフルオープンにする事も可能です。



(左) 障子戸の横桎は、強度を保ちながらシャープに見えるよう斜めに削って手前を薄く加工しています。両袖壁の寸法の違いから、建具上下とも右面が幅広で左右非対称。
(右) 上がFIX、下が引違い窓の組み合わせ。中だけでなく、外から見てもガラス越しに樺のシルエットが障子に映り込むのが見えます。



佐藤 剛
一級建築士事務所A-SA工房
TEL 0422-44-7255
URL <http://www.architect-sato.com/>



建築家31人の会

<http://www.kenchikuka31.net/>



UNION OF 31 ARCHITECTS

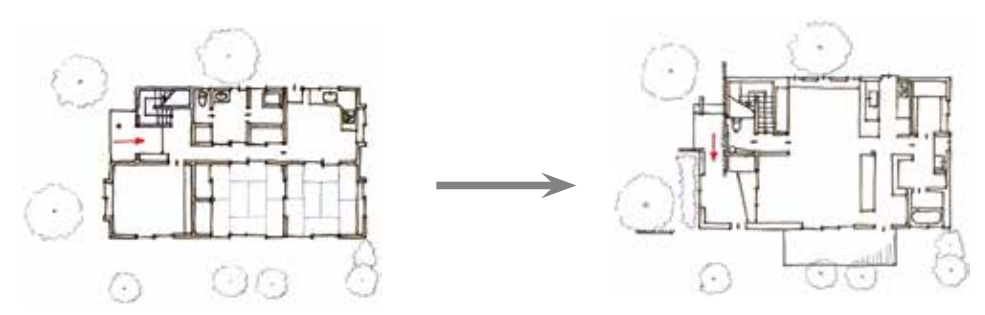
建築家31人の会は独立した建築家の会です。



リノベーションで実現した快適な住まい

地域の景観に溶け込み、自然と共生する夫婦ふたりの終の住処

木のルーバーで構成された和モダンのデザインは、インテリアにも連続して生かされ、落ち着いた空間を醸し出している。



© photo by Tomohiro Sakashita

1階のLDK。南北に気持ちのいい風が通り抜ける。



1:アプローチを長くとり木のルーバーで和モダンの雰囲気。 **2**:光を透過するワロン紙を建具に採用して明るさを確保した玄関。 **3**:ウッドデッキが外とのつながりをスムーズにする。 **4**:畳敷きの書斎は、廊下も部屋の一部に採り入れて、 **5**:対面式キッチンには吊り棚を設けずすっきりと。 **6**:空き地になった北側にも窓を設けて、緑の借景が楽しめるように。



DATA
場所／山梨県甲府市
家族構成／夫婦
設計／滝川 淳+標 由理(コネクト 一級建築士事務所)
施工／株式会社 中村工務所(大石幹夫)
竣工／2011年6月
構造／木造2階建 敷地面積／206.41㎡
建築面積／86.61㎡ 延床面積／124.11㎡

1階だけでも生活が完結する間取りであること、バリアフリーにすることに配慮した。その結果、1階には廊下を設けず、広いLDKと水回りを配したひと続きのフロアに。2階は、廊下をあえて南側に配して空間的に部屋の一部に採り入れながら、広がりのある書斎と寝室を配置した。

長年住み慣れた場所だったので、風の向きや日差しの具合など自然の環境を知り尽くしていた施主は、自然の力を最大限活用することを希望。その経験は窓の位置や向き、開口の大きさなどに生かされている。さらに太陽熱温水器、太陽光発電、LED照明、雨水利用といった、エコに配慮した設備を積極的に導入した。

地域の景観に溶け込むように配慮された外観デザインにも注目したい。建物の北側が、愛宕山へ向けて石畳の歩道「古の道」に面していたため、木のルーバーをデザインとして採り入れた。この木のルーバーは風の流れを確保しつつ外からの視線を遮る機能としても有効な要素となっている。

実は当初、建て替えるカリフォルニアスタイルはまだまだ迷いがあつた。そこで掘りこたつから床下にもぐって基礎の状態を調べたところ、ひび割れなど致命的な損傷は見られなかった。かつての甲府城の愛宕山石切場に隣接する場所で、地盤はかなり頑丈なところ。エコの面でも解体することには積極的でなかった施主の意向を汲んで、既存の土台を生かしたリノベーションという選択をすることにした。

ベタ基礎を打ち直し、内部に補強壁をプラスして耐震壁とするなど、耐震性を強化。設計にあたっては、老夫婦の終の住処とすること、将来のために

35年前に4人家族のために新築した家は木造2階建て。1階に応接間とDK、和室が2室、2階に個室が2室という5DKの間取りだった。子供たちが巣だつていき、夫婦ふたりの生活になると、この間取りは使いづらい。老朽化も目立ってきたことから、夫婦の終の住処としてリノベーションをすることになった。



滝川 淳+標 由理
コネクト 一級建築士事務所
東京都中野区新井4-15-5-403
TEL 03-5942-7367
URL <http://connect-arch.net/>

私のドア

文／松永 基

ヒロミはいらだっていた。帰り際に課長に呼ばれ、今日中にやっというて資料を渡されたのだ。新人ちゃんの席に目を向けると終業時間前だというのに席にはもういなかった。大きなため息をついてパソコンの画面を睨んだのが3時間前のこと。下りの急行列車が沢山のため息と酒臭い息を乗せてすぐ脇を走っていった。通りの街灯は蛍光灯が壊れていて、3秒おきに消える。「まったく、蛍光灯もダメなんだから」と愚痴つてみても仕方がない。駅から自宅に向かう道の角のコンビニで、糖質0の発泡酒と軽めのスナック菓子を買った。家に帰って母親の前での食事をもつとつしくなっていた。家で母と二人で食事をしていると、話は結婚話になるに決まっている。「ヒロミ。あんたの後輩の向かいのキミちゃん、来春結婚するんだって、あんたはどうなの?」という具合になる。

コンビニの角を曲がるとまた一つ街灯がジジッと消えたかと思ったら点いた。まるでヒロミの奇立ちを笑ったかのよう。

郊外の住宅地の一戸建て。父が26年前に買った家だ。最初はこぎれいで、小学生だったヒロミはこの家が好きだった。クラスメートは皆同じような新興住宅街に住む子ばかりだった。今では、何処にでもある古臭い住宅だ。玄関の鍵は空いていて、門灯も点いていなかった。父もまだ帰っていない。玄関のドアを開けて「ただいま」と力なく言う。母が「お帰り。ご飯は?」と台所に繋がるドアの向こうから声を掛ける。「いらない。食べてきた……」と振り返りもせずに2階へと続く階段を駆け上がる。リビング階段なんて言葉もなかったころの3LDKの標準的な間取りだ。

ヒロミは自分の部屋の前に立ち、ため息を着いてドアを開け、ドアに奇立ちをぶつけるように、ボタンと音をたてて閉めた。ドアがあまりの勢いで閉まったのにヒロミ自身もびくつりした。それはまるで空間が歪んだような音だった。

部屋に入って、照明のスイッチを着け、ラジオでJ-WAVEを聞きながら、買ってきた発泡酒を缶のまま飲む。スナック菓子を開けようと袋をちぎると上手くいかず中身が床に散乱する。「もう!!!」と拾いもせず、通勤着のままベッドに口ロンと仰向けになる。寝たまま発泡酒を口にする。

つつと頬に冷たい液体が流れる。「ふう」っともう一度ため息をついて、床に散らばったスナック菓子を拾い集め、一つは口に運んだものの、残りはゴミ箱に捨てる。トイレに行こうと思い、部屋のドアを開ける。

……………

そこは闇だった。あまりの闇に思わずヒロミはドアを一度開けた。「何?停電?」

もう一度ドアを開けてみたが、そこは廊下ではなく、ただの闇だった。「お母さん!!停電?」と闇に向かって叫んでみるが何の返事もない。スマホの明かりで闇を照らしてみる。何も見えない。真正正路の闇だ。不安に思っ、スナック菓子を一つ闇に投げてみる。スナック菓子は音もなく闇に吸い込まれた。部屋を見回し、フラシを手にとって闇に投げる。またもや音もなく闇に吸い込まれた。ヒロミはもう一度叫んでみた。「お母さん!!誰かいるー?」闇は「お母さん!!誰か返って何の返事もなく、光も音も吸い込んでいくようだ。怖くなって、ドアを閉めて部屋の奥に引き返す。カーテンを開けて外を見ると、いつもと変わらぬ景色が広がっていた。隣の家の居間のオレンジ色の光が見え、2階の子供部屋の窓は、最近LEDに電球を変えたので青白く光っていた。小さな庭には花木の木が風に揺れている。空は月もなくぼんやり曇っている。いつもの日常が広がっていた。

ヒロミはもう一度ドアを開ける。そこには闇がただ広がっていた。何度か闇に向かって叫んでみても、何度か物を投げ入れても何の変化もなくただただ闇が広がっていた。ヒロミはドアを閉めてベッドに腰掛け、思考を巡らす。が、答えはなかった。突然に置いていかれてひとりぼっちになった子供のような感情になっていた。

もう一度ドアを開ける。今度は勇気を出して足を踏み出してみる。すると、腰から下が闇の中に消えた。怖くなってドアを閉める。「何これ?」

呆然としてベッドに座っていると、尿意を感じ



た。「やばいー」。ふと気がつくカーテンが風に揺れている。窓の外には相変わらずいつもの風景が広がっていた。ヒロミは無意識に腰窓を乗り越え、1階の洗面所と浴室の下屋の部分の屋根に立った。屋根沿いにキッチンの方に歩くと微かにキッチンから光が漏れている。「ヤダーお母さん。いるじゃん!」。「おかーさん!!」と呼んでみるが返事がない。耳を澄ますとTVのバラエティー番組の笑い声が聞こえる。母は誰もいない時にはバラエティー番組を大音量で見るんだっけ。

諦めたヒロミは屋根沿いに庭の方に行く。手を伸ばすと花木の枝に触れた。高校生の頃、友達とクラブに夜遊びに行きたくて、この木を使って部屋を抜け出そうとしたことがある。でもその時は木に手を掛けただけで怖くなってやめた。月桂樹の樹は今まで細そうだった。高校生の頃と変わっていない体躯が自慢のヒロミを支えられるだろうか? 「えい!」と一番太めの幹を掴み飛び移ると、あつけないほど簡単に庭に降りられた。「なんだ、高校生の時もやっておけばよかった」庭から、ぐるりと家の回りを半周する。晩秋の虫たちの声がヒロミが通ったとこだけ静まり返る。素肌の足裏に夜露が冷たく不快だ。庭から玄関に回り玄関ドアを開けて家の中に入る。

「おや!」匂いがいつもと違う。慣れ親しんだ家の香りでではなく、何処となくすえた匂い。

「おかあさん」と叫びながら上がり框に一気に飛び乗り、廊下から居間に入っていくと、おかあさんはテレビのリモコンを持ったまま驚いた顔をしている。「おかあさん、いるじゃないの?」ヒロミが強い口調で言う……。

「誰ですか!あなた!失礼ね!」とおかあさんが言う。

「えっ?何?ヒロミだよ。おかあさん、どつしたの?」

「あなたは誰?うちのヒロミは部屋にいるよ。頭おかしいんじゃないの?」

「私の部屋は2階だよ、どつしたの?」

「何言ってるの、早く出ていってくれ!でないと警察呼ぶよ!」

「えーだから、私の家はここ、私の部屋は2階。私はヒロミだよ!」

「まったく訳の分からない女だね。とっとと出ていってくれ!!」

ヒロミは強い力で押された。あまりの力だったので驚いたヒロミはその手を払った拍子におかあさんは顔で倒れた。

「何すんだ!あなた!警察呼ぶよ!博曰!変な女が家に入ってきたよ!追い出してくれ!」と叫び始めた。

ヒロミは何も言わずに階段を駆け上がった。後ろではおかあさんとおかあさんとおぼき人が叫んでいた。階段を登ると、見慣れたドアが目の前にあった。そのドアを見て少し安心して、一気にレバーハンドルを下げて部屋に入ると、ヒロミは愕然とした。そこは自分の部屋ではなく、床にはスナック菓子の袋、カップラーメンの空容器には割り箸が刺さったまま転がっている。下着やジャージ、雑誌や訳のわからない本、足の踏み場はまったくなかった。そして何よりすえた匂い。そのゴミの中から、力のない声が出た。「あなた、誰?」。小太りで眼鏡をかけ、髪はボサボサ、何日も換えてないのが胸元には食べこぼしの染みがあるジャージを着た男がいた。

「ここは……」とヒロミが言いかけて辞めた。ドアの位置や、窓、壁や広さはまったく同じだけど、ここは私の部屋ではない。

「博曰、変な女があんたの部屋に上がったっていったよ!あたしに暴力振るって!」と叫びながら、おかあさんもどきき階段を登ってきた。後ろから腕を掴まれた。

訳がわからないまま、ヒロミはドアを開けた。聞きなれたカチという音がした。そのカチという音を聞いた瞬間に、空間は電気スイッチを切ったように暗くなった。

いや、暗くなったのはヒロミの意識が遠のいたからだ。失つ意識の中でヒロミは「ヒロミ??大丈夫?」というおかあさんの優しい声を聞いたような気がした。ヒロミは最後に「私の部屋、私のドア」とつぶやへ

そして意識は深い闇の中に落ちていった。

information

東京ガスの家庭用燃料電池「エネファーム」



※画像はイメージです。実際の設置とは異なります。

燃料電池の技術を利用し、都市ガスをつかって自宅で発電する「エネファーム」。発電時に出る熱を捨てずにお湯も一緒につくります。ガスで発電する分購入電力量を減らせ、ガス代と電気代のトータルで年間の光熱費がおトクに。ガス温水床暖房やミストサウナも一緒に接続できます。

東京ガス株式会社
TEL 0120-593039 (日曜・祝日を除く9:00~19:00)
URL www.tg-enefarm.com

開放感を生み出す KAMIYA の「フルハイトドア」



「フルハイトドア」は、天井まで届くドアの高さと上枠がない独自の納まりで洗練された住空間を生み出します。また、特許技術に裏付けられた内部構造が反りを抑制し住む人にゆとりと安らぎを約束します。

神谷コーポレーション株式会社
TEL 0463-94-6203
URL http://www.kamiya-yokohama.co.jp/

木のぬくもり・特性を活かした高性能木製玄関ドア



家に帰ったら必ず触れる玄関ドア。だからこそ、天然木の温かさで演出する事で外観全体がより一層引き立ちます。さらに高い断熱性・気密性・防犯性を加えたのがこのドアです。反りに対する工夫も加え安心して使える木製玄関ドアに仕上がりました。

チャンネルオリジナル株式会社
TEL 045-662-0088
URL http://www.channel-o.co.jp/

第一回 家具デザインコンペティション ～建築家の考える”私の設計した家で使いたい家具”～ 結果速報



建築家31人会では、協賛いただいている栄進物産／SAVOIA主催のもと、第1回家具デザインコンペティションを開催しました。ライフスタイルを実現するための設計の中で、“こんな家具があったら”“何でびったりな家具がないの”という場面は多いのではないのでしょうか?家具メーカーはプロダクトから家具を考えがちですが、空間から発想する建築家の皆様からのアイデアを募集しました。多くのアイデアの中から審査の上、大賞1件 特別賞2件 クリエイティブ賞2件が決定いたしました。

YKK APから新世代玄関ドア「ヴェナートS」登場



新世代ドアキーシステム「スマートコントロールキー」を搭載した「スマートドア ヴェナート」。そのデザイン性の高さをさらに進化させた新しい玄関ドア「スマートドア ヴェナートS」が誕生。鍵穴が見えない電気錠で毎日使う玄関ドアをもっと便利に快適に。

YKK AP株式会社
TEL 0120-20-4134 (日曜・祝日を除く9:00~17:30)
URL http://www.ykkap.co.jp/

プロ・フィット ハニカム庇Ⅱ キャンチタイプ



ハニカムパネルを採用したシンプルデザインと風雨に強い強靱性、雨音の少ない静粛性を兼ね揃えたプロ・フィット庇Ⅱが誕生した。厚み29mm、出幅900、600、450mm、ワイド1000、1450、1900mmのラインナップ。広い間口には庇を横につなげるジョイントタイプが対応。全機種にLED照明装置が装備できる。

ヒガノ株式会社
TEL 048-931-3321
URL http://www.higano.co.jp

東京ガス横浜ショールームみなとみらいにオープン



2013年6月「MARK I S みなとみらい」4階に横浜ショールームがグランドオープンしました。ミストサウナや床暖房、ヒビッとコンロなどガスの最新設備を気軽に体験できる開放的な空間となっています。調理実演も随時行っています。

東京ガス株式会社
TEL 045-650-6630 (10:00~20:00 年中無休)
URL home.tokyo-gas.co.jp/showroom/tys/



◆大賞 トウイズム デザイン スタジオ(後藤栄子+木原ツトム) on Lotus (オットマンチェア)

プライベート空間、パブリック空間に限らず、量を使えないだろうか?との発想を元に量で作るオットマンチェアを考えました。単品でも複数でも使えることで、様々な空間に合わせる事が可能です。また、量だけでなく生地でのバリエーションも作ることで、張り地を変え長く使ってもらえるようにも考えました。

◆特別賞 タジェール(中村雅子)／LA MESA(テーブル) 櫛田建築設計室(櫛田弘毅)／ソファベンチ

◆クリエイティブ賞 Ar.K(南部健太郎)／Lunch bucket(椅子・テーブル) 小林真人建築アトリエ(小林真人)／フレキシブルチェア

from Editors

編集後記

ISSUE 31 Architects [THE DOORS] を手に取っていただきありがとうございます。小誌は建築家が自ら「くらしを楽しむづくり方!」と題して、毎号住まいの様々なパーツをとりあげていきたいと思ひます。創刊号のテーマは [ドア] です。Open the door! ドアを開けて! 建築家のつくる家の面白さを感じていただけたら幸いです。また、毎号編集長がリレー形式で変わっていきます。次号は南部さんです。次号のテーマが何になるかも楽しみです。

(創刊号編集長 松永 基)

発行元 建築家31人の会 出版WG
編集長 松永 基
編集 南部健太郎 標 由理 田邊恵一
編集協力 谷口裕子
写真協力 井上 玄 平井広行 杉田賢治 坂下智広
協賛 神谷コーポレーション株式会社 東京ガス株式会社 チャンネルオリジナル株式会社

建築家31人の会
http://kenchikuka31.net/
横浜市中区海岸通4-24 万国橋SOKO 301-b
編集WG TEL 045-680-5339

Time Space Architecture

旧作への思い

住まいは時間の経過や家族とともに生きています。新作ではなく、時間を経た旧作への思いを語ります。



自邸——18年の〇と×

1995年正月、自邸をつくる
うと思ひスケッチを始めた。事務
所を設立した翌年で、その年の9
月に竣工した。

それまで私は博物館や図書館な
ど公共施設を主に手掛けており、
「住まい」の設計経験は少なかつ
たが、私にとって「住まい」づく
りも、公共施設の計画プロセスを
通して経験した、多くの人々が楽
しめる空間づくりと同じ。「形」づ
くりではなく「場」を作ることが
その方法と考えていたため、躊躇
なく自邸づくりを楽しんだ。

出来上がった「住まい」は、念願のガレージを持ち、多
くの愛犬と暮らせ、庭を作れない「都市型住宅」ながらテ
ラスや屋上に家庭菜園も設け、植物が大好きな我々、そ
して犬達にとって豊かで楽しい「住まい」となった。

しかし、この「住まい」も〇ばかりではない。×もある。
立地条件から採光と空間性のために設けた西側のハイ
サイド開口は、当時エコガラスなどなく、冬は快適だが、
夏には全面に暑さを張り遮光する計画をしたものの、や
はり暑く、「力ずくの空調」に頼っており×。

ガラスも一部高所で外側を掃除しにくい箇所もあり、
「汚れも気にならない……」と強がり、薄さにこだわった
変形屋根は雨が降ると屋根の板金を叩く雨音がうるさく、
大雨の時など犬達は騒ぐは、TVの音も聞こえないは、
で×。

TVもブラウン管型が薄型大画面になり、壁が少なく
TVの置き場所がリビング正面のテラスと空間が連続する
大事な場所になってしまったことも×である。

昨年リフォームを行った。屋根には高性能の「遮熱塗
料」を塗り、ガラスには「酸化チタンの汚濁防止コート」
と「高性能遮熱フィルム」を施工したことで、なんと今年
の夏でも暑さは激減、ゲリラ豪雨でも雨音が大変静かに
なり、なんと〇に近づいた。

それでもまだ×もあるが、18年を経て今ではリビング
のみならずテラスや屋上の植物も育ち、都会にいながら
四季や自然の表情が感じられる、私たち家族の大好きな
「住まい」になっている。



田邊恵一
株式会社 田辺計画工房
東京都目黒区鷹番2-16-12 3F
TEL 03-5768-2878
URL <http://www.td-atelier.co.jp/>